**回答１**

**品質工学が定着しない理由**

**1. テーマ選定の誤り**

* 工場で設定済みの条件を変更できるパラメータに限界があり、品質工学の良さを生かせない。
* 新商品設定時に実験手法として利用する際にスキル不足。

**2. 学ぶ場がない**

* 工場で継続して品質工学を学べる場がない。

**3. 難解である**

* 各因子を選定するセンスが使う人の能力に依存する。
* 能力のない人が使うと、解がロバストにならず、事前検討が増える。
* 周囲が理解していないとプレゼンスが半減する。

**4. 新規製品開発**

* 時間をかけた割りに望んだ結果が得られない。

**5. 新規設備検討**

* 試作機で検討した内容を実機に展開しようとしても、機差がありすぎて活用できない。

**6. 既存設備の条件設定**

* 品質に影響するパラメータがおおよそ分かっているので、品質工学よりもマトリクス評価の方が効率が良い。

**7. その他**

* 社内での成功例が少ない。
* 社内に気軽に聞けるプロフェッショナルがいない。
* 工場では人員不足で、新しいツールを学ぶ余裕がない。

**結論**

品質工学は有効な手法だが、上記の理由から定着していない。

**改善策**

* テーマ選定の重要性を認識する。
* 継続的に学べる場を提供する。
* 使いやすく理解しやすいツールを開発する。
* 成功例を共有する。
* プロフェッショナルを育成する。
* 人員不足を解消する。

**参考情報**

* 品質工学 - Wikipedia
* 品質工学を成功させるための10のポイント
* 品質工学の導入事例

**その他**

* 上記はあくまで一例であり、他にも様々な理由が考えられます。
* 品質工学を定着させるためには、経営層の理解とコミットメントが重要です。

**回答２**

はい、送っていただいた画像は、品質工学が定着しない理由について説明されています。

**要約**

品質工学が定着しない理由は、以下の5つが挙げられます。

**1. テーマ選定の問題**

* 工場で既に設定されている試験条件や製造条件を品質工学によって変更するには、変更できるパラメータに限界があり、品質工学の良さを生かせない。
* 新商品設定時に実験手法として利用する際にスキルが不足している。
* 工場で、継続して品質工学を学んでいく場がない。

**2. 難解である**

* 各因子を選定するセンスが使う人の能力に依存する。
* 能力のない人がやると、解がロバストにならない。
* 事前検討が増える。
* 周囲が理解できていないと、プレゼンスが半減する。
* 検証側が理解していないと、検証方法として説得力に欠ける。

**3. 期待通りの結果が出ない**

* 新規製品開発：時間をかけた割りに望んだ結果が出ない。
* 新規設備検討：試作機で検討した内容を実機に展開しようとしても、機差がありすぎて活用できない。
* 既存設備の条件設定：品質に影響するパラメータがおおよそ分かっているので、品質工学を用いて何度も繰り返し評価実施するより、マトリクス評価を実施した方が効率が良いと考える。

**4. 時間と労力がかかる**

* 他業務も過多となってしまい、結局途中で中断となる。
* まったく同じ条件でも違うサンプルができてしまう。
* 再現性が全く得られなかった。
* 労力に比べて得られる新しい知見が少ない。
* 可変条件が少ない。
* 条件を設定するためには設備の調整が伴うため、工数の観点で協力が得られなかった。
* 他業務が多い中で品質工学に向き合う時間が取れなくなった。

**5. 社内での成功例が少ない**

* 社内での成功例が少なく、成功のイメージが湧かないため、主のプロジェクトのツールとして使いづらい。
* 社内に気軽に聞けるプロフェショナルがおらず、疑問に対しての解決が遅れる。

**その他**

* 工場では人員が不足しており、通常業務でもかなりの残業を行っている状況。
* 新しいツールを学び、使用することは、かなり負荷が高い。
* 時間を見つけて自主活動的に実施する文化や風土がない。

**結論**

品質工学は有効なツールであるものの、上記のような課題があるため、なかなか定着していないのが現状です。これらの課題を克服するためには、テーマ選定の慎重な検討、スキルアップのための教育・研修、成功事例の共有、社内文化の改善などが求められます。

**補足**

送っていただいた画像は、日本語で書かれており、品質工学が定着しない理由について詳細な説明がされています。上記の要約は、画像の内容に基づいて作成したものであり、詳細な説明を省略している部分があります。

**参考**

* 品質工学 - Wikipedia
* 品質工学とは？基礎知識から活用事例まで徹底解説 - 日立ソリューションズ・クリエイト
* 品質工学を現場に定着させるための3つのポイント - 野口英世記念館

**回答３**

**品質工学が定着しない理由**

**テーマ選定の問題**

* 工場で設定されている条件を変更できるパラメータに限界があり、品質工学の良さを生かせない。
* 新商品設定時に実験手法として利用する際にスキルが不足している。

**学習機会の不足**

* 工場で、継続して品質工学を学んでいく場がない。

**難解である**

* 各因子を選定するセンスが使う人の能力に大きく依存する。
* 周囲が理解できていないと、検証方法として説得力に欠ける。

**活用しない理由**

* 新規製品開発：時間をかけた割りに望んだ結果が出ない。
* 新規設備検討：試作機で検討した内容を実機に展開できない。
* 既存設備の条件設定：品質工学よりもマトリクス評価の方が効率が良い。
* 他業務が多いため、途中で中断してしまう。
* 再現性が得られない。
* 労力に比べて得られる新しい知見が少ない。
* 可変条件が少ない。
* 社内での成功例が少なく、成功のイメージが湧かない。
* 社内に気軽に聞けるプロフェッショナルがいない。

**その他**

* 人員不足により、新しいツールを学ぶ時間がない。
* 品質工学の実運用がイメージできない方が多い。

**要約**

品質工学が定着しない理由は、テーマ選定の問題、学習機会の不足、難解さ、活用しない理由、その他、などが挙げられる。

**改善策**

* テーマ選定の基準を明確にする。
* 社内教育を充実させる。
* 使いやすいツールを開発する。
* 成功事例を共有する。
* プロフェッショナルを育成する。

**私の意見**

品質工学は、製品の品質を向上させるための有効な手段である。しかし、上記のような課題があるため、多くの企業で定着していないのが現状である。

これらの課題を克服するためには、経営層の理解とコミットメント、そして現場の積極的な取り組みが必要である。

**質問**

* 品質工学を導入するにあたって、どのような点に注意すべきか？
* 品質工学を成功させるためのポイントは何？

**参考文献**

* <無効な URL を削除しました>
* <無効な URL を削除しました>